



# 二ホンマムシ

《私が子どもだった頃（中編）》 六浦3丁目在住 高桑 正敏

## 昆虫採集

もちろん昆虫を捕えることも男子の“仕事”だった。当時は捕虫網ほちゅうあみといった高級？なものは市販されておらず、せいぜい駄菓子屋だがしやで魚採り用の口径こうけいの小さなものを使っていた。それでギンヤンマねらを狙うのである。「お池」みぎわの水際をお回りするオスを狙ったり、上空を飛ぶ個体めがけて小石えさを放り投げ、餌かんちがと勘違いして小石を追って急降下きゅうこうかする個体を捕まえた。ギンヤンマのオスは子どもたちにとって人気者だった。

私だけはチョウ採り専用の網をもって、みなにうらやましがられていた。親が太い針金わくで枠を作り、それにスカーフきしの生地ぬで縫ってもらった網を通してくれたのである。もっとも、スカーフ生地では目が細かすぎて、勢いよく振ってしまうと、風圧でチョウが入らなかった。ただし網の問題もあってか、子どもたちにはチョウはそれほど人気がなかった。

### 二ホンマムシ（日本蝮）

学名：*Gloydius blomhoffii*

分布：北海道、本州、四国、九州、大隅諸島、伊豆大島、八丈島

全長 45～80cm ぐらいで、他の蛇に比べて太短く、三角形の頭、瞳が縦に長い、暗褐色の舌、ピット（熱感知器官）を持つ、卵胎生などの特徴を持つ。

いわずと知れた毒蛇であるが、毒量は少なく、年間約 3,000 人の被害の中、死者 5～10 名程度とされる。…が、毒性は強いので注意を要する。筆者もかつて咬まれて入院したことがある（顛末記はバックナンバーを参照のこと）。良好な自然環境のもとで生息しており、侍従川流域では噂は聞くものの姿を見ることは稀である。 解説：山田陽治



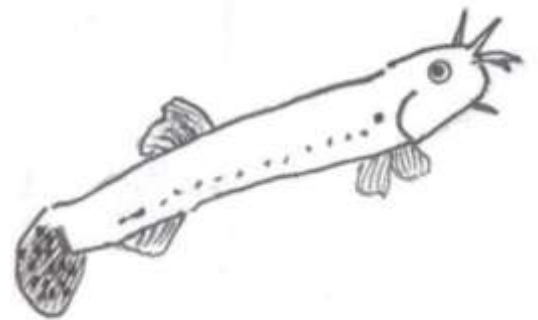
道具としては、セミ採り用のものもあった。針金で直径10~15cmの輪を作り、それを竹の先に取りつけ、コガネグモやジョロウグモの巣を巻きつけたものである。けっこうネバネバしていてよく採れたが、何度も使っているうちに粘り気がなくなり、ミンミンゼミのように勢いのよい個体は手元に引き寄せせる前に逃げられてしまう。ほかにニイニイゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシは多かったが、クマゼミだけはきわめて稀で、それこそ一夏に1回か2回の鳴き声を聞く程度であった。私はクマゼミを捕えたことがなく、級友が自慢げに持ってきた標本がうらやましかった（侍従川近辺で採集したものかどうかは知らない）。

カブトムシとクワガタも人気者だった。夏休みになると、早起きして丘に行き、自分たちの持ち場を見て回った。当時のクワガタの人気者は大型のミヤマクワガタで、ノコギリクワガタは分布していなかった（1990年代にはミヤマクワガタはほとんどいなくなり、逆にノコギリクワガタが見つかった）。カブトムシとクワガタ採りは日没直後のほうが効率よいが、当時はだれも夜に探しにいかなかった。おそらく夜は恐怖心があるのと、親が出歩くのを許してくれなかったせいだろう。捕えたものはスイカの食べかすを餌として与えていた。

当時の樹液は、圧倒的にクヌギがよかった。燃料はまだまだ薪や炭が主体だったので、西ヶ谷戸の丘でもどこかしらで伐採がなされていた。このため若い雑木林が健在であり、クヌギも樹液の出るほどよい太さだった（直径15cmを超えるとシロスジカミキリによる樹液は出ない）。それゆえ樹液ポイントはたくさんあった。

### オオムラサキはいたか？

日本の国蝶であるオオムラサキは神奈川県せんいきのほぼ全域に分布していた（現在では相模川さげがわ以東ではほぼ絶滅）が、例外的に箱根火山ではごく一部に限られ、また三浦半島も分布していない。では、横浜市金沢区ではどうかと言うと、少なくとも円海山周辺には生息していた（私自身が1970年頃に幼虫を採集している）。過去の文献をひもとけば、鎌倉市十二所や神武寺~鷹取山の記録が出てくる。これらの地域は円海山からの山続きでもあるので、過去に生息していた可能性は十分にある。ただ、円海山方面からたまたま飛来した個体の可能性もないではない。こうした状況を考えるなら、分布しているかいないかの境界は、どうやら侍従川周辺にあったと考えてよいだろう。



ホトケドジョウ 深沢大地

では、西ヶ谷戸ではどうだっただろうか？ 小学生からのチョウ好きであった私にとっては、もちろんオオムラサキは憧れの的だった。しかし、影すらも見かけたことがなかった。ところが中学生のとき、「おいせ山」でオオムラサキを採ったという鼻高々の級友が現れた。私は驚き騒いだが、標本を見せてと言ううちに、「じつは逃げられた」という。彼は間違いないと主張したが、ほら吹きのある奴だったので、子ども心にも100%の信用を置くべきでないと感じた。そもそも、私自身が幼少の頃から何度も足を運んだ西ヶ谷戸周辺の丘、それも足しげく通った「おいせ山」に、オオムラサキが生息していたとは考えにくい（ちょっと自信過剰かな？）。

### なつかしの植物たち

植物の中では、丘でヤマユリを探しては各自の庭に持ち帰った。花をたくさん付ける年数を経た個体が人気だったが、そうしたものは崖上など危険で入れない場所以外では採り尽くされた感があった。

珍しいものではシランがあった。子どもにはそれほど人気がなかったように思うが、当時すでに2~3か所でしか見かけなかった。その中で、白山道へのトンネルの崖上に群生していたものが最後まで残り（採集できないゆえ）、白花の個体も交えていたので目を楽しませてくれた。トンネルの改修工事のためだろうか、残念ながらだいぶ前からその姿がない。もしかすると自然状態のものは、侍従川流域全体としてもほとんど絶滅危惧状態になっているのかもしれない。民家の庭に植えられている姿を見るにつけ、複雑な思いにとらわれてしまう。

当時はまた、シュンランはじめエビネ、キンラン、ギンランなどのラン科植物、それにカントウカンアオイも多かった。エビネやシュンランなどはそれこそどの雑木林でも普通に生育していた。山野草ブームもまだまだ下火だったのであろう。

いまでは防災上の観点から、崖面のほとんどはコンクリートやフリーフレームで覆われている。しかし、小学生や中学生のころは、どこにでも露頭があった。その露頭を調べるといろいろな貝化石が見つかったものであるが、崖面に好んで生育する植物、とくにコモチシダやオニヤブソテツ、ホウライシダ、タチシノブなど各種のシダ植物で覆われていた。ホウライシダは外来生物だが、金沢八景周辺にはとくに多く、当時すでにどの崖面や石垣にも密生していた。

つづく

## 会員のつどい

【活動報告1】

6月16日(土) 18:00~19:00

大道小コミュニティハウス

廣瀬隆夫

6月16日の土曜日、18時から大道コミュニティハウス2階の多目的室で侍従会の会員のつどいが行われました。会計の田辺さんから平成23年度会計報告と平成24年度予算(案)の説明がありました。その後、細川さんによる侍従川のクリーンアップの活動内容の報告があり、寺尾さんからは、平成24年度の活動計画の説明がありました。



学生部からは、佐野さんが侍従川の生き物の分布、棲み分けについての調査報告がありました。最後に、恒例となりました河本さんによる侍従会の1年間の活動を振り返るスラードショーがありました。



また、参加いただいた松崎淳議員と松本純議員の秘書の森さんから、侍従会への激励のお言葉をいただきました。

佐野さんのペットのキノボリトカゲも参加して賑やかな会になりました。



## ホタル観察会

【活動報告2】

6月16日(土)、17日(日) 20:00~

大道中学校

山田陽治

6月16日(土)、17日(日)と二日に渡って、大道中学校でホタル観察会が開催されました。

6/16(土)は、会員のつどいの後の実施でしたが、あいにくの雨…それでも75人の見学者の参加がありました。

6/17(日)は、細川さんリーダーのもと実施。193人も参加がありました。

観察できたホタルの数は16頭と19頭でした。

今年の春の寒さから、ホタル発生的高峰は遅くなるだろうと予想されましたが、例年より早いピークで、見られた数は少なかったのが残念でした。

来年はたくさん見られるといいですね。

## 2012ホタル調査報告

今年も例年通り5月下旬から7月上旬にかけて、大道中学校にてホタル調査が行われた。今年はグラフを見ても分かる通りホタルの個体数は非常に少なかった。今年のピークは6月6日の62頭であるが、その前の調査日である6月2日とその後の6月9日が雨天のため調査出来なかったのが個体数減少の一因ではないかとみられる。また、その他の要因として、大道中学校の河川環境の変化（例として泥の蓄積による植物の浸食、結果として乾燥し水量の減少）が考えられる。



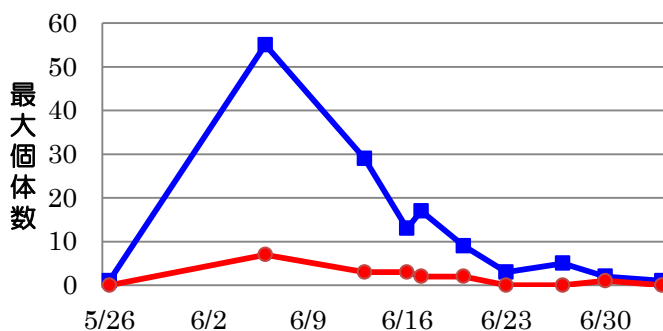
そこで、ホタルの保全活動への参加を皆さんに呼びかけたい。今年も2月に大道中学校（大道溪谷）にて行われたこの活動はホタルの飛翔範囲を広げるために木を切ったり、水路確保のためにスコップで掘ったりする（詳しくは会報アサリ号を見ていただきたい）。来年の皆さんの参加を期待します。

また、グラフを見ても分かる通り、6月上旬から中旬にかけて、時間帯は7:45~8:15にかけて最もホタルの個体数は多かった。この時期を目安にホタルを見に行ってみようか。

冬季の保全活動に参加したのち夏季にホタルを見ていただくと今いっそうホタルに親しみを感じる事が出来るのではないかと思います。

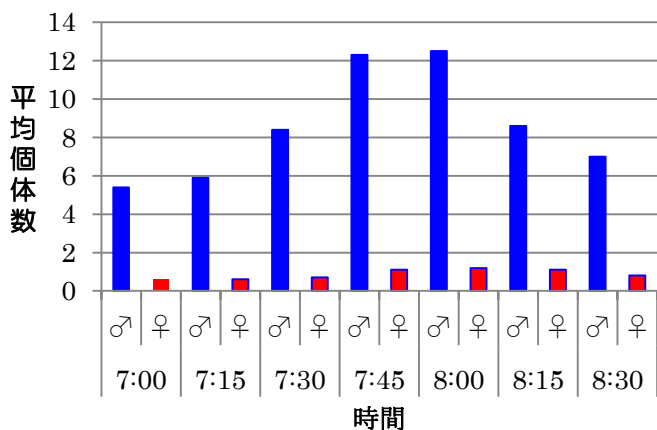
学生部 金子英司

2012ホタル個体数調査  
(調査日別最大個体数)



	5/26	6/6	6/13	6/16	6/17	6/20	6/23	6/27	6/30	7/4
♂	1	55	29	13	17	9	3	5	2	1
♀	0	7	3	3	2	2	0	0	1	0

2012ホタル個体数調査  
(時間帯別平均個体数)



## 6月定例クリーンアップ

【活動報告3】

6月24日(日) 9:00~12:00 曇りのち晴れ

朝比奈橋~大道東橋(ゴミ拾い)、大道橋上流~青木橋(草刈り) 細川一雄

参加者：長野政治、長橋 輝明、西澤 博厚、角田 繁、八木場 紀元、村田 章夫、石塚 正夫、外川 忠志、山田 陽治、飯村 優介、村上美和子、石川、鳥越 昌三、鳥越 典子、鳥越 珠貴(小1)、鳥越 龍(4歳)、金子 英司、深沢 大地(小6)、入江つばさ(小4)、浅田 ゆうき(小4)、細川 一雄(計21名)

台風4号の大雨と強風の影響なのか待従川にも通常より多くのゴミと大型のゴミが落ちていました。

今回は山田さんの知人や、子どもたちや学生部の人たちが多く参加してくれました。そこで大人たちは先月行った草刈りの続きとして、大道橋上流100m付近から青木橋間の草刈りを行い、子どもたちは山田さんと共に大道東橋から上流に向かいゴミ拾いと生き物観察を行ってもらいました。

上流部分は護岸近くの草を刈るので草刈り機の刃が傷むため草刈り機が使えません。手作業で伸びた草を刈っていきます。途中陽が出てきて暑くなった事と梅雨時の湿気で瞬間に汗で体がびしょりになります。作業の途中で外川さんが駆けつけてくれましたので、先月刈り取った草を川から上げて運んでもらいます。

体を休めながら1時間ほど作業をしていると、子供達が下流から遡ってきましたので、冷たいアイスと飲み物を買って来て一休みして体を冷やします。

20分ほど休憩して再び作業を開始します。護岸の草を持って鎌で切ろうとしたとき親指の根元をアシナガバチに刺されてしまいました。見ると持ち上げた草の先に5cmほどの蜂の巣が着いていました。軍手をしていたので深く刺されませんでしたが、すぐに刺された所を水で冷やしてもなかなか痛みが引きません。

刈り取った草を紐で束ね、乾いて軽くなってから上げる事にして青木橋の下に積んで置きました。その後上流域のゴミ拾いをするため角田さん、石塚さんと一緒に耕地橋まで遡りゴミを回収しました。



大道橋上流の草刈り



青木橋下流の草刈り



## 7月定例クリーンアップ

【活動報告4】

7月29日(日) 9:00~11:30 晴れ 31℃

朝比奈橋~二の橋(ゴミ拾い)、ブックオフ~地蔵前橋(草刈) 細川一雄

参加者:長橋 輝明、西澤 博厚、角田 繁、八木場 紀元、  
中藤大治、細川一雄(計6名)

瀬戸神社の祭礼のため、実施を1週間遅らせて実施したクリーンアップ。梅雨も2週間程前に明け、真夏の作業に加え、メンバーも今年度最少参加人数の6人と、悪条件が2つ重なった最悪の作業となりました。

今月は人数が少ないため班を分けて実施していた下流のゴミ拾いは実施せず、全員で上流に向かい(移動するだけで汗が垂れてきます)、地蔵前橋から川に下りました。

地蔵前橋から上流に向かって草刈り作業を行います。また、地蔵前橋上流にある大きな木の枝が大分伸びて川に大きくかぶさってききましたので、枝打ちを行いました。

何分にもメンバーの殆どが高齢者の為、熱中症に十分注意をしながら作業を行います。10時少し前に休憩を取り、冷たいアイスキャンディと氷・お茶を買って来て喉を潤おし、体を冷やします。

20分ほど休憩しましたが、体力の消耗が激しく、これ以上の草刈り作業は無理と判断し、このままゴミ拾いをしながらちとせ園まで下る事にしました。途中青木製作所の解体作業現場の横の護岸の木の枝を切った物や屋根のスレート板などが川に落ちそうな状態になっていました(作業後会長に連絡→金沢土木事務所に報告)。

大道橋から下流にはお祭で売られていたようなおもちや菓子類のゴミが多くありました。

また、山王橋の下でカルガモの親子(親が1羽、子供3羽)を見つけました。治水事務所が草を刈ってしまったのに何処に巣を作っていたのか不思議です。いずれにしろ無事に3羽とも大きくなって欲しいものです。



# ジュニアキャンプ in 野島

8月5日(日)、6日(月)

【活動報告5】  
服部杏奈

1日目は朝から気温も高く、続々とやってくる皆の額には汗が…。熱中症が心配になる1日が始まりました。

ひと通り自己紹介が終わった後、お昼を食べるとすぐにテント張りに取り掛かりました。見慣れないテントの説明書を前に頭を抱えたり、皆で試行錯誤しながら組み立ててやっとできた!…と思ったらいきなり「グシャッ!!」と潰れて心が折れそうになったりもしましたが次々とテントは張られ、皆の寝場所が確保されました。

テントが完成すれば、いよいよお待ちかねの海です。山田さんと瀧本さんの安全講習の後、夕食用のアサリを求めて海に入りました。皆の気合いの入った漁のおかげで夕食には美味しいお味噌汁が食べられましたね。やっぱり大勢でワイワイと食べるご飯は格別ですね!

少し遠めの銭湯から帰ってきた頃にはもう良い子は寝る時間となっていました。そして始まったのは恒例の「勇者達による肝試し」。悲鳴が響き渡る恐怖の肝試しが選ばれし子ども達と行われました。…笑い声も交じていましたが。正直、大人の方が怖がっていたかもしれませんね…。

さて、翌日はあいにくの天気で、降ったり止んだりを繰り返す様な天気でした。朝方、起きていた人達を集めて展望台に朝日を見に行った時は良い天気だったのですが…。

海に行きましたが潮が満ちていてあまり沖の方に進めず、アサリを探したのですがやはりみつきませんでした。テントの方に戻ると、皆が捕まえたカニがバケツにいっぱいいました。思わず私は「え、もしかしてこれ食べるつもりなんですか…!？」と聞いてしまいました。

虫捕りや、ハンモック、昼食の準備に忙しい皆はいつのまにかカニの事を忘れてしまっていた





みたいですが最後には丁寧にかえしてあげていました。よかったよかった…。

キャンプはお昼過ぎに終了となりました。皆がこのキャンプで新しい「何か」に出会えているといいな、と思います。私は新しい友達やみんなの素敵なところを発見できました。これからもどんどん色々な発見をしていってください。

最後に土砂降りの中、大急ぎでの片付け本当にお疲れ様でした。

## ジュニアキャンプの感想

○キャンプ初めてだったけど、沢山友達が出来て楽しかった。一番楽しかったのはハンモックでぶらぶらしたこと。また行きたい。(とりごえ たまき)

○お姉ちゃんの友達が来てうれしかった。虫捕りしたり貝捕りしたのが楽しかった。貝のスープを食べたのが美味しかった。(とりごえ たつ)

○海で泳いだことと、ハンモックが特に楽しかった(浅井優喜)

### 《侍従川流域 生き物発見記録》

☆今年のカブトムシが多い年でした。大道中裏山・大道小裏山・お伊勢山など侍従川流域の山でたくさんみられました①。…金子・佐野特派員

☆朝比奈小学校のオニヤンマ健在！！朝比奈小学校では今年ピオトープづくりがおこなわれました。オニヤンマがたくさん飛んでいました②。

…長崎光則特派員

☆8/19 侍従川、侍従橋～高橋間でウロハゼを採集③。…鳥越龍・佐野真吾特派員(この個体の標本は登録番号を付けて博物館に保管されました)

☆8/19 アカテガエの産卵を野島で確認！！④侍従川流域で産卵が確認されたのは初めて！？

…山田・金子・青木・佐野特派員



8/13(月)～15(水)神奈川県立愛川ふれあいの村で、学生部による合宿が行われました。

今回は条件つきで小学生の参加も認め、小学生9、中学生1、高校生8、大学生2、大人4の総勢24名の参加。

一日目は、中津川で川流れ体験とスローロープによるレスキュー。二日目は降雨のため、川での活動は中止。愛川公園と愛川町郷土資料館に出かけました。二日目の夜は生き物観察…カブトムシを始めいろいろな昆虫が見つかりました。三日目は、再び中津川へ行き川遊び。



充実した夏休みの三日間を過ごすことができました。

…岩手県に引っ越した梅本父子も参加してくれました。



いつも見ている侍従川も、川に入ってみると、今まで気がつかなかった発見がいっぱいあるよ。

朝比奈の森には、横浜でも姿を消してしまった生き物や植物が、まだ頑張ってるよ。

川がきれいになると、金沢の海にも生き物の賑わいが戻ってくるよ。

侍従川では、子どもの探検と発見がつながっています。これからもいつまでも続けていきましょう。

尾上伸一、土屋美沙都

## 夏休み野外教室

【活動報告7】

8月19日(日) 9:00~12:00

大道小学校

島村眞依

8月19日に夏休み野外教室が大道小学校にて行われました。今年の野外教室では魚とりと虫とり、そしていかだの3つのグループがつくられ、子どもたちは自由にグループを決めて参加するという形態のものでした。

私はいかだ担当でした。いかだは泥牛橋の辺りで乗船会をしました。初めていかだに乗る子どももたくさんいて最初はみんな上手く漕げず戸惑っていましたが、漕いでいくうちにコツをつかみ、しばらくするとみんないかだを上手に操っていました。子どもたちの吸収力には驚きました。

また、いかだの順番を待つ間魚とりをしていた子どもたちは、チチブやウキゴリなどを捕まえていました。

今年の川下りは中止になってしまったこともあり、短い距離ではありましたがいかだの乗船会ができて良かったです。いかだに乗らない待従川での夏はあり得ないと実感しました……(笑)

野外教室の終盤は、みんなで捕まえた生き物を山田さんがレクチャーしました。山田さんの説明を子どもたちが目を輝かせて聞いていたのがとても印象的でした。

半日でしたがとても充実した時間を過ごせたと思います。



## 8月定例クリーンアップ

【活動報告8】

8月26日(日) 9:00~11:40 晴れ 31℃

朝比奈橋~二の橋(ゴミ拾い)、地蔵前橋~青木橋(草刈り) 細川一雄

参加者:長橋輝明、石渡博、村田章夫、西澤博厚、八木場紀元、石塚正夫、

新屋勇樹(長橋さんのお孫さん)、細川一雄(計8名)

残暑が厳しく、朝の8時で既に31℃でした。2ℓのポットに麦茶と氷を沢山入れ、塩アメを配って作業開始です。

今回は里野橋から青木橋間の草刈り作業を行う予定でしたが、何しろ背中を太陽にジリジリと焼かれるような暑さのため、30分作業して15分休憩にしたので、青木橋の1つ上流の橋までしか作業で出来ませんでした。

ちとせ園から歩いてただけで大汗をかいてしまいましたが、里野橋横の駐車場から川に飛び降り(年寄りにはヒヤヒヤものの飛び降りでした)、2人は上流の朝比奈橋まで遡り、大きく伸びた草がありましたので鎌で切り倒しながらゴミ拾いを行います。残りのメンバーは地蔵前橋から下流に向かって草刈りとゴミ拾いを行います。

9時45分頃に里野橋の下に入って日差しを避けて休憩を取り、冷たい麦茶とアイスキャンディで喉を潤します。もって行った麦茶があっという間に無くなっていきます。

20分ほど休憩して作業を再開しますが、暑さのため作業が進みません。青木橋の1つ上流の橋についたところで休憩し、体力の消耗が激しいため今回は草刈り終了とし、千寿園までゴミを拾いながら下る事にしました。

途中青木橋の下に、整地作業を行っている作業員が捨てたと思われるコンビニ弁当類が散乱していました。後日抗議する為ゴミをそのままにしてちとせ園につき、冷たい飲み物で体の疲れを取って11時40分に解散しました。

また、川への排水パイプが川に出ている部分が残されていましたが、本来は整地作業と一緒に撤去するべきと思いますが……。後で金沢土木事務所に確認してみます。



里野橋下流の草刈り



地蔵前橋下流(草刈り後)



里野橋の下で日差しを避け一休み



青木橋下に置いてあった長靴とヘルメットとゴミ



回収したゴミ(4袋分)

# 注目種 “ウロハゼ” の大量侵出！

～侍従川への影響は果たして～



2012/8/19 侍従川汐見橋

## ★ウロハゼとは？★

ウロハゼとは、河口や下流域などの汽水域に生息する大型のハゼ類です。大きいものは25cmを超えるものもいます。大型であるため甲殻類や他の魚類を捕食します。

かつて神奈川県では希な種であったことからレッドデータブックにおいて希少種に指定されていました。しかし、1995年頃から記録が増え、多摩川・鶴見川・田越川・下山川・境川・相模川などで確認されるようになりました。そして、県内では以前からの記録がないことから、近年の増加傾向は温暖化による南方からの侵出である可能性が考えられ、レッドデータブック(2006)では“注目種”として扱われるようになりました。

## ★ウロハゼが侍従川に大量侵出★

侍従川におけるウロハゼの確認は、10数年程前からちらほらみられました非常に稀でした。そのため「ウロハゼは珍しい魚」という印象でした。ところが2012年8月19日に、1日で3個体が採集され(佐野・鳥越・山田採集)、同年9月9日におこなわれた侍従会の恒例行事“ハゼ釣り大会”では20個体以上のウロハゼが釣り上げられたのです！これは今年の猛暑が影響しているのでしょうか！？

## ★侍従川への影響は！？★

今回のハゼ釣り大会では、毎年数百匹釣れるはずのチチブがほとんど釣れなかったこと、また、釣れたハゼ類の8割がウロハゼであったことが気になりました。大型のウロハゼが大量侵出したことは他の生物に影響を与える可能性が考えられます。



2012/9/9 侍従川泥牛橋



2012/9/9 侍従川汐見橋

(記) 佐野真吾

## 佐野真吾が語る侍従会の思い出～炭焼きの日のネアカヨシヤンマ～

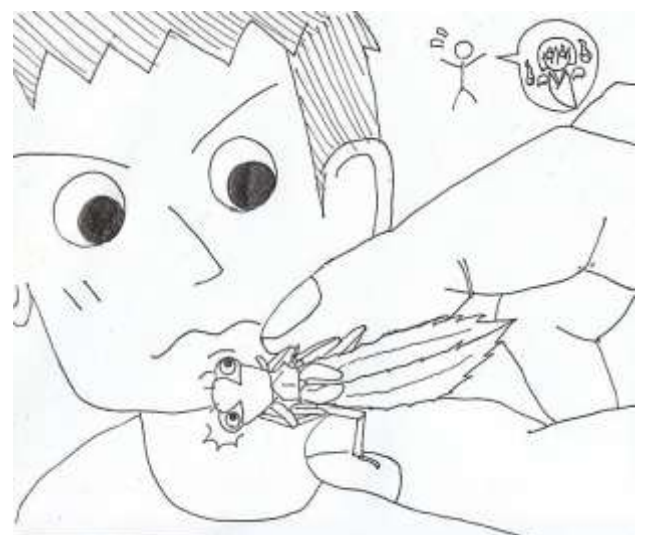
2001年の11月（私は中学2年生）のことです。同級生のタクマに「侍従会で上郷の自然観察の森にキャンプファイヤーみたいな感じなことをしに行くんだけど行こうよ！」と誘われました。最初「みたいな感じってなに？」と疑問に感じましたが二つ返事で行くことを決めたのでした。

当日、現地に行くと学生部隊長の山田さんが何やら説明を始めました。当時は今ほど興味がなかったので、山田さんの説明した手順についてはまったく覚えていませんが、話のまとめにはこのようなことを言っていました。「今回の“炭焼き体験”はただの体験としてだけでなく、昔の里山の暮らしや自然の利用法についても考えてみてください！」…「えっ？炭焼き体験？」…「おいタクマ！キャンプファイヤーじゃねえじゃんか！」「同じようなもんじゃないの…」「違うだろ！」こうして炭焼き体験が始まりました。上級生たちを中心に火の管理を体験し、皆楽しんでいました。

ちなみに当時、炭焼きなんてまったく興味がなくマイペースであった私は、タクマと2人で夜の虫とりに出かけてしまいました。しかし、今回ばかりはその選択が思いもよらぬ発見へとつながることになるのでした。

暗い森を歩きながら私たちは近くにある小さな池を目指しました。すると一緒にいたタクマが「佐野くん夜の森とかよく平気だね？」と言いました。本当は一人だと少し心細いからタクマを誘ったのですが、ここはそれを悟られないようにいつものキャラで「まあよくクワガタとりとか行くしね！慣れたよね！」と平然を装い返答しました。するとタクマが「佐野くん知ってる？ここって昔首つりがあったんだって？出るって竹内さんが言ってたんだよね…俺靈感あるからヤバイんだよ…」。この男はいつも、自分が怖がりのクセにそういう場でわざわざ怖い話を持ち出し、自分でつくってしまった恐怖ムードに自ら飲まれてうろたえるのです。

子どもの頃からオバケの類いはそれほど怖がらなかった私ですが、靈感だなんだと真顔で言って本気で怯えている人間が横にいるとさすがにその空気に飲まれてしまいます。「もういいよ！さっさと池に行くぞ！」とごまかしながら早歩きで池に向かったのでした。池に着いてみると、辺りが木々に囲まれた暗い場所であるとともに、先ほど怖い話をしたムードも加



わり今にもカッパでも出て来そうな不気味な雰囲気です。しかしそれでもライトで池の中を照らすとマメゲンゴロウやヤブヤンマの幼虫が泳いでいてテンションが上がりました。

網を入れてみるとマルタンヤンマのヤゴが採れました。こうなると怖さより楽しさが勝り虫とりに熱中していきます。しばらくすくうと1匹、見たことのないヘンなヤゴが採れました。「おいタクマ！ これはきっと珍しいヤゴだよ☆」「え？ 新種？ 新種？」「いや新種じゃないと思うけど、とにかく見たことないやつだ！ 戻って山田さんに見てもらおう！」。こうして帰りは夜道の怖さなど忘れて炭焼き小屋まで戻りました。

「山田さん！ このヤゴ見てください！ 何のヤゴだと思いますか？」「う～ん？…こっちはマルタン？…分からん！ 今度梅田くん（山田さんの同級生でトンボの専門家）に聞いてみたら！」。こうして結局その日は謎のヤゴの正体は分かりませんでした。そして、その夜は炭焼き小屋で火を前に語り合いました。とってもいい思い出として記憶に残っています。

さて、それから数日後、謎のヤゴを写真に撮って梅田さんに送ると早速お返事をいただきました。そして謎のヤゴの正体はなんと“ネアカヨシヤンマ”でした。背中にトゲがあるのが特徴だそうです。「スゴイ！ あの憧れのネアカヨシヤンマのヤゴだったのか！」私は興奮しました。ネアカヨシヤンマは子どもの頃から図鑑を読んで知っていました。何でも自らクモの巣に飛び込みクモを狩って食べるとか！ こんな凄いヤンマがいるのかと秘かに憧れていたヤンマなのです。

さらに、当時の神奈川県レッドデータブック(1995)では絶滅危惧種に指定されており、記録が少なく非常に珍しいヤンマだということも言われ褒められました。「凄いスゴすぎる！ 大発見だ！ 大快拳だ☆」。褒められるとすぐにのってしまう私は一人で大はしゃぎをした記憶があります。こうして、私は冬の間もせっせとネアカヨシヤンマのヤゴの世話をし、次の年の初夏には羽化させることにも成功しました。さらに、ヤゴを採った池の近くに通い、飛んでいる成虫を採ることにも成功しました（その時採った標本は現在、生命の星・地球博物館でおこなわれているトンボ展で展示されています）。

さてさて、今回の話は、炭焼き体験の話だったのに、なんのこっちゃ？ と思われた読者の方も多いかと思います。何が言いたいのかが非常に分かりづらい話ではありますが、ズバリ“珍しいヤゴを採ってヤッターという話”でした！（笑）



侍従会の子どもたちの中にも「これは珍しいやつ？」と、私のところに生きものを見せて来る子がいます。持って来てくれる生きものはたいてい普通種なのですが、それでもたまに珍しい生きものを持って来る子もいます。小学生の頃から一緒に活動している現在高校生の学生部エース、金子くんは、小さい頃から私も驚くような生きものを毎回持って来て見せてくれました。また、現在小学6年生の深沢くんがオオクワガタを持って来てくれた時は目が飛び出るほど驚きました。

生きもの探しをしていると珍しい生きものと出会うことがあります。そして、珍しい生きものを見つけた時は、それがどれほど珍しいのか説明して褒めてもらえると嬉しいですよね☆ 私は自分の体験を元に、子どもたちにとってそんな大人になれたらいいなと思います！…と、今回は少し偉そうで無理やりな、苦しいまとめですが、皆さん面白い生きものを見つけたら気軽に見せに来てくださいね☆（笑）

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

## 朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～

飯村優介

残暑の中、北から山の高い所から秋のキノコもおりてきます。

まだ夏の暑さと乾きのダメージでキノコが少ない9月半ばでも1000mの高さの中央高地の里山ではキノコ盛りとなる。

紹介するホウキタケというキノコはサンゴのかたまりのような美しいキノコだ。アカマツやコマツガ、ミズナラなどの混じる岩尾根にでる。味、香りのうまさ格別で歯切れもいい最もうまいキノコと言える。

手入れの良い里山も好み、50年位前の大道、朝比奈山には出たかも知れない。

次の写真のウスヒラタケも溪流沿いの枯木に群生。生える木により香りのよい物もできるし、味や歯触りも良くどんな料理にも使える。ヒラタケよりやや暖かい時期、やはり涼しい場所から里へだんだんおりてくる。

9月下旬、暑さ長引く年で10月上旬、大道のまわりも順番に適温のキノコが次々にでる。高山より待たされるが秋遅くから初冬まで種が移りかわり楽しめるところだ。



ホウキタケ



ウスヒラタケ





# だよい

創立50周年に地域・保護者の協働でつくられた歴史資料館ですが、20年の月日を数えてだいぶ傷んできましたので、先日、保護者・地域・子どもたち・教職員を合わせのべ50人で2日間にわたって展示物の水洗いをしました。冷たい井戸水で洗って、龍山前副校長先生がつくったおいしいカレーを食べ、流しそうめんを楽しんだ2日間でした。9月は、障子を張る作業や壊れかけた手桶などを直す作業をやりました。ぜひ、みなさんも参加してください。



## そのほかにも・・・

大道村のイベントが続きます。  
みなさんお誘い合わせのうえ、  
参加してください。

**9月30日(日)**  
**お月見の会 トンボ池ライトアップ**  
**18:00~**



## お米づくりに学ぼう

**10月13日(土)** 昔の農具を使って、お米の脱穀をしよう。よもやま話2

**11月24日(土)** 蓄音機で昔の曲を聞いてみよう。よもやま話3

**12月22日(土)** わら細工とおもちつき。よもやま話4

と続きます。お楽しみに

## 侍従川生き物図鑑 No.17

### ～ ヨツスジトラカミキリ ～ (カミキリムシ科)

学名: *Chlorophorus quinquefasciatus*

体長: 13~18ミリ 分布: 中流域から上流域



横浜市金沢区 7月

スズメバチの模様に見えることで身を守っているトラフカミキリ(カミキリムシ科)の一種で、本種はその中でも最も見かける機会が多く、中流の住宅地の庭先や畑、上流の山林で見ることができ、主にヤブラガシ、ヤナギ、イヌビワなどの枯れ木に集まります。

動きはハチにそっくりで忙しく、危険を感じると身を震わせ威嚇のような仕草を見せ、初めて見る人は本当にハチと見間違えることが多いようです。

でも毒は持っていないので刺されるようなことはありませんのでご安心を。



威嚇している顔

# 琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

## ～ オキナワキノボリトカゲ ～

学名：*japalura polygonata polygonata*

体長：17～27センチ 分布：奄美諸島、沖縄諸島



大宜味村 2月



日光浴中 大宜味村 3月



キノボリトカゲの赤ちゃん  
今帰仁村 9月

沖縄を代表する爬虫類で、沖縄島の方言でサンペーグー、シューミー、コージーなどと地域、集落ごとに様々な愛称で呼ばれています。

和名のとおり木の上で生活し、体の色は周りの色に合わせて変えることができます。様々な昆虫を捕らえて食べますが、中でも大好物なのはアリで、樹の幹にできたアリの行列の先頭を陣取って、粘着力のある舌で絡めとって食べる姿がよく見られます。その姿はまるでカメレオンのようです。

監修：熊井（沖縄在住）

### トピックス

◎6/4 六浦小3年侍従川探検…相川会長、細川、佐野が対応

◎6/15 高舟台小5年生に侍従川のレクチャー  
…山田が対応

◎6/18 六浦小3年侍従川探検…相川会長、細川、佐野が対応

◎6/19 高舟台小5年侍従川調べ（中流域）  
…相川会長、細川、山田が対応

◎7/4 高舟台小5年侍従川調べ（下流域） ⇨  
…相川会長、細川、山田が対応

◎7/14 侍従川探検～川歩き&調査…雨天中止

◎7/18 高舟台小5年侍従川調べ（中流域） ⇨⇨  
…相川会長、細川、山田が対応

◎7/21 六浦小親子ふれあい教室…雨天中止

◎8/11、12 いかだづくり・侍従川川下り大会…雷注意報発令のため中止

◎8/17 大道小はまっ子ふれあいスクールの侍従川遊びに飯村、山田が対応



虫のきょういく座談会 ～アカテガニの産卵を追って!～

参加者：山田・青木・金子・佐野

8月19日、この日は侍従会で野外教室がおこなわれていたが、筆者佐野は朝からとある理由でソワソワしていた。そして大学生・高校生たちが集まったのを見計らいそのソワソワの理由を発表するのである。

佐野「みんな!! 今日は何の日か知っているかい!? ☆」  
皆「…さあ〜??」

いつも佐野に振り回される島村氏・服部氏・金子氏は、「はいはい今日は何だよ」…といった感じでノリが悪そうな顔をしている。

佐野「今日は大潮なんです!! ということは?? ♪」

金子「釣り?」

佐野「違う!! アカテガニの産卵だろうがあ!! 先週の野島キャンプでアカテガニいっぱいいたでしょ? 本日は大潮だし産卵するのはまさに今日だ!」

島村・服部「残念! 夜バイト!」「私は部活です(笑)」

佐野「なぬ! ……カネゴン(金子氏)は今日行くよね!?(ギロリ)」

金子「ええー!! (笑) いや俺は…… (笑)」

こうして金子氏の強い意志と希望にお答えして野外教室の後、18時半の満潮の時間を狙って野島に向かったのである。ちなみにメンバーは山田氏・金子氏・佐野に加えて、今回初参加の大学生、青木氏の4人である。

ここで少しアカテガニについて説明したい。アカテガニは7月~8月の大潮の満潮時に産卵にやってくることで知られている。卵を抱えたメスは海に入り体を震わせることによって卵を割りソエア(カニの子)を海にばらまく。そのための確には産卵ではなく“放仔”という。しかし今



回は分かりやすくするため“産卵”という表現で書かせていただいた。ちなみに侍従川流域では中流域の路上や林縁、野島などで親ガニが稀に発見されていたが、そもそもの発見例が少なくどこで産卵をしているのか謎に包まれていたのだ。

山田「先週、野島でやったジュニアキャンプで子どもたちがアカテガニいっぱい採ってきて驚いたね！」

佐野「そうですね！ ジュニア会員のお母さんが数年前に野島でアカテガニが大量に歩き回っているのを見たらしいんですよ！ おそらくそれは産卵の日だったんじゃないかな！」

金子「この辺りのアカテガニは野島で産卵している可能性が高いね！」

佐野「まず間違いないと思う！ あとはポイントだな！」

山田「俺、だいたいポイント絞ってるよ！ たぶんあそこだな！！」

一同「おおー！！ さすか隊長！！」

こうして一同は期待を胸に野島に到着した。そして歩きながら山田氏がアカテガニの生態や侍従川における知見を説明した。しかし少し歩くと山田氏が突然声をあげる！

山田「ああっ！！」

一同「えっ！！ なになに！？」

山田「サノシンの車にカメラ忘れた！！…むう…もういいや行こう…」

その後山田氏は開き直ったのか、アカテガニの産卵シーンを実演しながら熱く説明していた。そしてそうこうしているうちに山田氏の言うポイントに到着した。

佐野「カニたちはまだ見当たらないけど、確かにここは良さそうなポイントですね！」

砂浜と海に面した少し小高い陸地があり、小高い陸地の先は波で削られ良い具合に影になっている。そしてそこを覗くと、中にはたくさんのアカテガニがいるではないか！

佐野「いたいた！！ もうスタンバイしてるよ！！」

山田「どれどれ！！ おおー！ サノシン！ 車のカギ貸して！ やっぱりカメラ取って来る！」

この時の時刻は18時過ぎ。ほとんど満潮であったが辺りは明るくアカテガニは産卵する気配がない。そこで青木氏と佐野は環境教育についてミニ座談会をすることにした。しかし、それから10分もしないうちに青木氏が砂浜の方を指さし叫ぶ。



ゆっくり海に入るアカテガニ

青木「あれ！ カニ出てきてませんか？」

佐野「えっ！？ どこどこ！！ ああーっホントだ！！」

こうして山田氏の到着を待たずアカテガニの産卵は始まったのである。アカテガニは我々を警戒しているようで、砂浜と波打ち際を行ったり来たりウロウロしている。また、ライトを照らすと驚いて岩陰に戻ってしまう。

佐野「ライトが使えないのは痛いなあ！ うまく撮影できるかな…」

青木「こっちの懐中電灯はカニもあまり驚かないですよ！」

青木氏の使っているライトは赤い光のせい、カニはあまり警戒しないようである。

佐野「ホントだ！ ちょっと青木くん照らしてもらっていい？」

観察しているとアカテガニはこちらに警戒しながらも波打ち際に近づき海に入っていく。そして波が寄せて来るタイミングに合わせて体を震わせ一気にソエアをばらまいたのだ。

佐野「おおっ！ ばらまいた！ 見た見た！？ カネゴンも見た！？」

金子「見た見た！ 今ばらまいたね！」

その後、立て続けに数匹が産卵しその瞬間の撮影にも成功した。こうして今回は産卵の確認および待従川流域におけるアカテガニの産卵地点が解明され大きな成果をあげられた。そして感激と感動の素晴らしい観察ツアーとなった…と思われた。…ところが…

佐野「いやぁバッチリ見られてよかったねえ☆ 写真も撮れたし♪」

青木「よかったです！！ 感動しました！！」

金子「うんよかった☆ 初めてみた☆」

佐野「山田さんどうでした？ 来年は皆で見に来てもいいんじゃないですかね？☆」

山田「・・・俺は見られなかった・・・ズ～ン」

一同「・・・」

その後一同はバーミヤンで食事をし、空腹を満たした後カブトムシ観察ツアーを決行した。結果、たくさんのカブトムシと出会えて山田氏のテンションは回復したそうである。

(おわり)



アカテガニの産卵（放仔）

前回の座談会の「アカタマ」は、正しくは「アカマタ」です。お詫びして訂正します。

# 侍従川定例調査報告 学生部

6月19日(火) 曇り

【大道橋～大道東橋】(中流域) 9:10～11:00

生き物：アオダイショウ、ヒバカリ(目視)、アユ、ボラ、メダカ、マハゼ、チチブ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ビリンゴ、シマヨシノボリ、クサフグ、モクスガニ、クロベンケイガニ、テナガエビ、ミソレヌマエビ、アメリカザリガニ、ハグロトンボ(成虫・幼虫)、ヤマサナエ(幼虫)、コオニヤンマ(幼虫)、オニヤンマ(幼虫)、コシボソヤンマ(幼虫)、ギンヤンマ(幼虫)、ショウジョウトンボ(幼虫)、ガガンボsp(幼虫)、アメンボ、カワニナ

備考：高舟台小5年生の総合的な学習の時間で確認されたもの。

7月4日(水) 晴れ

【諏訪橋～京急逗子線架橋】(下流域) 9:15～10:40

生き物：ミズクラゲ(死骸)、タテジマイソギンチャク、アサリ、マガキ、フジツボsp、コウロエンカワヒバリガイ、ヨコエビsp、イソコツブムシ、ユビナガスジエシ、テナガエビ、ユビナガホンヤドカリ、ヤマトオサガニ、チゴガニ、マメコブシガニ、カクベンケイガニ、クロベンケイガニ、チチュウカイミドリガニ、フタバカクガニ、ボラ、マハゼ、シマヨシノボリ、チチブ、ビリンゴ、アオダイショウ



備考：高舟台小5年生の総合的な学習の時間で確認されたもの。

8月19日(日) 晴れ

【長島橋～泥牛橋】(中下流域) 9:45～11:15

生き物：メダカ38、マハゼ6、チチブ8、ウキゴリ10、スミウキゴリ7、ビリンゴ8、テナガエビ2、ミソレヌマエビ22、モクスガニ、クロベンケイガニ、ギンヤンマ(幼虫)6、コシボソヤンマ(幼虫)5、ヤマサナエ(幼虫)2

備考：夏休み野外教室開催時に確認されたもの。



【六浦二号橋～汐見橋】(下流域) 13:20～15:00

生き物：ボラ 1 捕獲 (多数目視による確認)、  
アシシロハゼ 3、ウロハゼ 3、アベハゼ 3、アサリ、  
ヤマトオサガニ 1、コウロエンカワヒバリガイ、  
ホンビノスガイ、マガキ多数、ホソウミニナ多数、  
ミズクラゲ 1



アベハゼ

備考：アオサで水面が覆われていた。

記録：金子英司

## 事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

### ◆10月～11月の活動予定◆

☆10/14 (日) 金澤水の日 10:00～15:00 野島研修センター

☆10/28 (日) 定例クリーンアップ 9:00 ちとせ園集合

☆11/25 (日) 定例クリーンアップ 9:00 ちとせ園集合

※定例クリーンアップは雨天延期・翌週日曜

■秋の森たんけん～秋の恵み採集の日程は追って連絡します。

◎活動の詳細(集合時間・場所、持ち物など)は、別途配布の活動予定又はホームページをご覧ください。<http://ji-jyukai.web.fc2.com/>

◎行事案内は、ふるさと侍従川に親しむ会メーリングリストらくらく連絡網でお知らせします。メーリングリストに登録希望の方は、[yohji-y@ezwab.ne.jp](mailto:yohji-y@ezwab.ne.jp) までお知らせください。

◎学生部の活動は別途連絡します。

### 『ふるさと侍従川に親しむ会運営ミーティング』について

運営ミーティングは、これまで毎週第四土曜日に実施していましたが、今後は必要に応じて開催します。日程はメーリングリストでお知らせします。

《編集後記》 今年の夏は猛暑で雨も少なかったですが、いかだづくりと侍従川川下りは、悪天候のため中止になってしまいました。子どもも大人も楽しみにしていた方が多いと思うので、とても残念でした。ウロハゼの大量侵出(13ページ)も、猛暑の影響でしょうか? 今後の調査結果は要注意です。(MK)